

各 駅 停 車

回 覧

社会福祉法人豊田市福祉事業団

No.43 2015. 8. 5

福祉と障がいのある人を理解するための情報紙

豊田市こども発達センター開設 20 周年！
20 年 ご支援ありがとうございました。
これからもよろしくお祈いします



平成 27 年 4 月より、豊田市こども発達センター長を務めます三浦清邦（小児神経科）です。

「発達に心配のある子どもたちの健やかな育ちと、ご家族の幸せを支援する」という役割を担い、平成 8 年 4 月に開設された豊田市こども発達センターは、今年開設 20 周年を迎えました。最近では、豊田市の 10% 以上の子どもさんに利用して頂いております。

この間、通園施設「ひまわり」の移転、「ちょうちょ・とんぼ」組の開設、あおぞらのサテライトとして「おひさま」の開設、法律の改正に伴う通園部門の改組、相談事業体制の整備など、時代の変化に合わせ、また時には時代を先取りした運営をすることができました。これもひとえに、豊田市民の皆様のご理解とご支援のおかげと関係者一同、心より感謝申し上げます。

国連の障がい者権利条約の批准に伴い、様々な法整備が進められる中で、市民にもノーマライゼーション理念が浸透し、発達に心配のある子どもさんも、センターからの移行または並行通園で、地域の保育・教育・福祉機関を利用することが増えてきました。医療分野でも、小児や障がい児（者）を対象とする訪問看護ステーション・リハビリテーション、在宅医療機関を利用する子どもさんが増えてきました。また、センターを利用した多くの子どもさんが成人となり、就労支援を含めライフステージを通じた支援も必要となってきました。今後も、こども発達センターは、多くの地域機関同士の連携がスムーズに進むように、連携のまとめ役・調整役としての責任を果たして参りたいと思っております。

センターの全職員が、「来ると、元気が出て、ほっとできるオアシスのような施設」をめざして、日々働いております。センターには、様々な専門家がそらい若手からベテランまで、いつも笑顔が絶えず元気です。19 年間センター長を務めた高橋脩（児童精神科）も、豊田市福祉事業団理事長となり、こども発達センターでの診療も継続しています。皆様のお役に立ちたいと思っている職員ばかりです。

子どもさんの発達に何か心配がありましたら、気楽にこども発達センターに相談に来て頂けたらと思います。

今後も、豊田市民・みよし市民の皆様にご頼られるこども発達センターであり続けられるよう、職員一同がんばってまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。





「ひまわりバンド」は第二ひまわりに通われている利用者の方の中から、楽器演奏が得意な方やリズムに乗ることが好きな方で構成された音楽グループです。

今回は、6月28日に豊田市育成会主催の音楽祭「Piece」VOL.7に出演させていただきました。この音楽祭「Piece」は6回目の出演になりますが、毎回新たな曲にチャレンジしています。私たち「ひまわりバンド」の目指す演奏は、お客様が「見て聴いて楽しめるよう笑顔で演奏すること」です。メンバーも練習の成果を發揮し、大いに会場を盛り上げることができました。

「こどもひろば」託児ボランティア募集！！ かわいい笑顔に囲まれながら、穏やかな時間をすごしませんか

- ◆活動場所 豊田市こども発達センター内 こどもひろば
(豊田市西山町2丁目19番地)
- ◆活動日時 毎週月曜日～金曜日の10時～12時30分
*月に1回でも構いません。
- ◆活動内容 療育を受けている子どもの兄弟姉妹の託児
- ◆お問合せ 豊田市こども発達センター 海老子 (なののはな施設長)
電話 0565-32-8983 F A X 0565-32-8987



平成26年度 豊田市福祉事業団総括事業報告

平成26年度 貸借対照表(一般会計分) 平成27年3月31日現在(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	155,892,039	流動負債	153,702,923
固定資産	204,388,780	固定負債	194,388,780
		負債の合計	348,091,703
		純資産の部	
		基本金	10,000,000
		その他の積立金	0
		次期繰越活動収支差額	2,189,116
		純資産の部合計	12,189,116
資産の部合計	360,280,819	負債及び純資産の部合計	360,280,819

ノーマライゼーションの基本理念をもとに、利用者の主体性と選択性を尊重し自立と社会参加の充実を目指した事業展開に努めました。

児童部門においては、こども発達センターが、発達に支援が必要な子どもとご家族にとって「オアシス」であれたらとの初心を大切にして、相談支援事業に関連した内部体制を整備。急増する通所支援事業所などへの専門的支援を行い、保育・教育・医療機関との連携強化を図りました。また改訂版「療育マニュアル」を完成いたしました。

成人部門においては、専門的な相談への対応や職員を講師として派遣。他の事業所等への支援の充実に努めました。また、利用者アンケート調査を実施して支援内容の更なる充実を図り、利用者のサービス等利用計画を作成しました。

事業団全体では、今後10年を見据えた長期計画として、事業団推進計画を策定いたしました。